

1 診療放射線技師による医療安全

今回は病院の検査の中でもみなさんが比較的接する事のあるレントゲン検査などを担当する放射線技師のお話です。

診療放射線技師の業務はレントゲン検査、胃や腸の造影検査（バリウム検査）などを始め CT、MR、アイソトープ、マンモグラフィー、骨密度測定など多岐に渡っており、それぞれに対応する安全安心な医療を提供するための様々な取り組みを行っています。

では一体、どのような医療安全を行っているのかお伝えして行きましょう。

2 事故防止マニュアルの実行

検査毎に事故防止マニュアルを作成し、検査現場で実行しています。

医療現場における事故防止の「事故」とは、撮影機器の故障や患者様が転んで怪我をしてしまったこと、または患者様の取り違いまで幅広い意味があります。その中で放射線科として取り組んでいる事例を三つ挙げてみました。

★ 血管造影検査でのタイムアウト

血管造影検査など体への影響の大きな検査を行なう時には、検査開始前に全ての作業の手を止めて、医師、看護師、診療放射線技師が集まり確認を行ないます。患者様の名前・生年月日・検査対象部位・病歴などを全員で確認し、患者様のリスクを確認しあい、また取り違いや撮影部位間違いを防止する確認作業を行なっています。このように全員で手を止めて確認することを「タイムアウト」と言います。

* 検査前のタイムアウトの様子 *



「シップを貼っていないか」、
(熱が発生しやけどの可能性あります)

「刺青 (いれずみ) はないか」
(熱が発生し火傷したり色に変化することがある)

「妊娠あるいはその疑い」
(妊娠 12 週までは検査できません)

「閉所恐怖症の有無」
(動いてしまうと十分な撮影ができなくなります)

検査を受ける患者様の状態をしっかり把握する事が重要なので何度も確認させて頂くことがあります。ご協力をよろしくお願い致します。

MRI検査を受けられる方へ

1. この検査は、磁気を用いて全身を断層撮影する磁気共鳴イメージング(MRI)というものです。
2. この検査は身体への影響はありません。しかし、手術で止血や固定などのために金属が使われている場合は、身体や検査に影響することがあります。手術を受けたことがある人は、必ず申し出て下さい。(ペースメーカーをつけている方は、検査出来ません)
3. 検査は約1時間程度かかりますから、検査前にはトイレに行っておいて下さい。
4. 検査時は検査着に着替え、貴重品、金属類(時計、メガネ、指輪、入歯、補聴器、エレキバン、使い捨てカイロ、磁気カード、ヘアピン、首飾りなどの装飾品)は、はずしロッカーに入れて下さい。(カギは担当者にお預け下さい)
5. 長い時間同じ姿勢でいるため少しづらいかも知れませんが、眠っても良いですから、楽な気持ちでベッドに寝ていて下さい。
6. 検査中は、コンコンコンと音がしますが、機械の音ですので心配はありません。

放射線科

3 X線写真撮影の被曝に関するQ&A

X線写真撮影の被曝についてよく受ける質問についての回答です。今後とも受診される皆様に安心して検査を受けて頂けるようこれからも努力して参ります。



Q. 毎日胸のX線写真を撮影して大丈夫？

- A. 一回の撮影で用いる線量はごくわずかなので大丈夫です。胸部X線写真撮影の一回の被曝は、我々が1年間に浴びる自然放射線の1/40から1/50程度です。その程度の被曝のリスクより、毎日の検査で得られる情報の利益のほうが上回ります。

Q. 頸椎6方向、腰椎6方向、両手2方向と合計14回撮影されました。被曝が心配です。

- A. 撮影回数は多いほうですが、一回の撮影で用いる線量はごくわずかなので安心して検査を受けてください。また少しでも被曝を抑えるため、X線が当たる範囲をできるだけ狭くしています。

Q. X線写真撮影の被曝の影響は身体に出ませんか？

- A. 影響には2種類あって、ある一定以上のX線量が当たらないと出現しない障害と、X線の量によって発生率が変化する障害があります。検査で使用するX線量は少ないため、一定以上のX線量が当たらないと出現しない障害は起こりませんし、X線の量によって発生率が変化する障害はX線量が低すぎて人では報告されていません。

